



第67号 (年4回発行) 編集発行 弘前学院大学 前報委員 印刷所 (有)小野印刷所

二〇一六(平成28)年度 卒業式式辞

「謙虚と言葉」を大切に

弘前学院大学 学長 吉岡 利忠



2016(平成28)年度の文学部43回生、社会福祉学部15回生、看護学部9回生ならびに大学院社会福祉学研究所修士課程13回生、大学院文学部修士課程11回生の学位記授与式を挙行いたし

ました。 総勢1771名(文研究科1名、文英26名、文日29名、社49名、看護66名)の皆さまが弘前学院大学から卒業、修了して行きます。 さて、私が最も大切にしている銘をご紹介します。それは「謙虚と言葉」です。昨年の本学学位授与式でもお話し致しましたが、是非皆さまと共有したいという強い思いがありご紹介したいと思えます。この「謙虚と言葉」を私が指導を受けた阿部正和先生が1989年(平

成元年)に色紙に書いて下さいました。丁度、私が教授になって一年目の時で、気を引き締めて教育、研究、運営などに当たりなさいということでした。人生の一つの大きなポイントであることをしっかりと押さえて毎日を過ごさなさいということだと思えます。皆さまにおかれましても、大学から社会に出ていく大きなターニングポイントでしょう。これからいくつかのポイントを通過して行くと思いますが、先ずは今日がその日であるうと思われまます。 阿部先生のお父様は弘前市出身の阿部義宗先生で、本

学理事長を1940(昭和15)年から2年間、さらに1957(昭和32)年から16年間の長きにわたってお勤めになられました。阿部正和先生の伯父は本学創立者であり、古いことですが廃藩置県の影響で廃校となった東京の義塾を再興し、また、東京の青山学院第2代院長で学院発展の基礎を築いた本多庸一先生です。阿部先生の弟さんは阿部志郎先生で横須賀基督教社会館館長として神奈川県立保健福祉大学学長に就任された方です。本学の創立記念礼拝や元寺町の日本キリスト教団弘前教会でも数回にわたる講演をしております。



さて、「謙虚と言葉」ですが、「謙虚」とは自分の能力・才能などを誇らず素直な態度で人に接するさま、

たことを基盤としてさらに能力・才能に上乘せして頂きたいのです。社会に出て経験を積み重ねるほど力をつければつけるほど、努めて謙虚さを保つ必要があります。そしてもう一つ、「言葉」、聖書にも「始めに言葉があった」と記されており、どのような場面においても「言葉で始まるでしょう。その時には先ず相手の話を良く聞きそしてそれを受け適切に対応しなければなりません。大学で得

さて、学校法人弘前学院は創立131年目に入ります。皆さんは本学の歴史と伝統のある大学に在学したことに、堂々たる誇りを持つて下さい。 将来、皆さんが素晴らしい伴侶を得て、行く行くは皆さんのお子様たちが弘前学院聖愛中学校・高等学校として母校となる弘前学院大学で学び、弘前学院の歴史を共に作っていただくことを願っています。そのような、皆さんに愛される大学になるように私ども教職員は素晴らしい教育環

中長期目標実施計画の 確立・実践に向けて

学校法人弘前学院 理事長・学院長 阿保 邦弘



二「目ざしたもの」 「弘前学院経営の理念と方針」の精神

弘前学院は「畏神愛人」を建学の精神としている。「畏神愛人」の「畏神」は、旧

約聖書の箴言第一章七・八節「主を畏れることは知恵の初め。無知なものには知恵をも論しをも侮る」を典とする。 ラッセル校長が一九一五年(大正四年)学則改正の際、学則の終わりに掲げた生徒心得の中に「畏神愛人」の文字が初めて現れる。 その後、「畏神愛人」は長い間、本学院の建学の精神とされてきたが、「神すなわち聖なるもの、永遠なるものを

尊び敬い、愛を持って他者に使える人間になることを目指す」という深遠な意味を持つている。 建学の精神と共に、弘前学院にとって忘れてはならないのは創立者「本多庸一」の存在である。 弘前教会の前に高さ三メートルに及ぶ巨大な石碑があるが、その碑の中で「東奥に生れし日本の国士 日本に出でし霊界の大人」と讃えられた人物である。 「本多庸一」については、「弘学時報」に二〇〇六(平成一八)年から「本多庸一とキリスト教」の題で三五回にわ

たつて掲載し、学生並びに教職員関係機関等に紹介してきた。 創立百三十周年を機に弘学時報の記事を小冊子に編集し、「挿絵」を入れて読みやすくしたので、多くの方々読んでいただけたものと期待している。

「畏神愛人」と本多庸一を二本の柱としてきた本学院の教育実践は、いつの時代においても革新と創造ということに重きを置いて進めてきた。 時代の変化を的確に把握し、それに柔軟に対応しながら組織・習慣・方針などを変

えて新しくすることに、その時代にふさわしい体制を創造し続ける姿勢を重視してきたのである。 と、現在の弘前学院はかつて経験したことのない国を挙げての教育改革という大波と、受験人口の激減という非常事態に直面している。

全国の大学の中には、荒れ狂う激流に翻弄されて、右往左往したまま対応に苦慮しているところも多いと聞いている。 しかし、本学院では「弘前学院経営の理念と方針」の精神をもとに作成した「中長期

目標・実施計画」を着実に実践していくことで、未曾有の大難難襲来にもびくともしないという確信を持つている。 「弘前学院経営の理念と方針」の二(二)では、大学経営目標として次の四点を挙げている。 ①教育研究の質の向上 ②学生に明確な付加価値をつける ③時代の変化に対応した大学改革を推進する ④就職対策の研究と強化 この四つの項目と、「弘前学院経営の理念と方針」の五に掲げた「学生・生徒の定員

確保」は、「中長期目標実施計画」の中でも重要度・緊急度において第一に挙げられるべき事項である。 特に、「生徒・学生の定員確保」は弘前学院の生命線であり、①積極的な生徒・学生募集活動の展開 ②入学試験制度の不断の研究改善は急務を要する。 本学院の悲願である定員確保のためにも、上記四つの項目を速やかに実行に移し、全学の教職員が一致団結して本物の教育の提供に努めていかなければならない。 すなわち、それぞれの専門

において「選抜かれた世界」を提供し、生徒・学生に対して深い本質で迫ることによって、若い魂を揺り動かしていくことが必要なのである。 若者に知恵と力と勇気を与え、夢と希望の達成へ歩み出す機会を絶えず設けていくことで、始めて弘前学院が目ざす本物の教育が完成するのである。 以上、「理念と方針」の精神に基づく「中長期目標実施計画」の目ざしたものについて述べておく。(以下次号)

God Bless You. (二〇一七年三月一八日)

談話室

「切り売り」の魅力

文学部 英語・英米文学科 講師 原 圭寛



昨夏、集中講義の依頼を受け東京に滞在した際、院生時代からお世話になっていた先輩に昼食に誘われた。うだるような暑さで食欲もあまりなかったが、向かった

先は最近出講先の近くにできたステーキ屋だった。最初は気乗りしなかったが、その店の注文システムに惹かれた。客の目の前で肉の塊から、指定する量なり厚さなりを切り出してくれるのだ。この「切り売り」が受け、昼時には結構な行列ができる。結局かなりの厚さに切ってもらった肉をすっかり平らけてしまった。

研究紹介 36

小児科外来の症状アセスメント

看護学部 助教 齊藤 史恵



私の専門は、小児看護学です。近年、少子化傾向や実習施設の不

足などから、病気の小児を毎日継続して受け持ち、実習を行うことが少しずつ難しい状況になってきています。そのような中でも学生に学んでもらいたいことは、たとえ短い時間の関わりであっても様々な発達段階や健康レベルにある小児とその家族との関わり方と、そして小児が訴えている症状を適切にアセスメントする

ことだと思っています。小児は、大人と違い、つらい症状があってもうまく相手に伝えることができないので、学生が小児の症状をアセスメントする力をつけるためには、各種アンケートや普段の遊んでいる状況などから小児が出すサインをくみとっていくことが必要です。研究では、学生が小児科外来での実習において、小児の症状を観察しどのようにアセスメントできているのかを明らかにするために、診察の前に小児と家族に予診を実施し、その後の学生の記録を見て分析しました。今回、学生が外来実習の予診に

部分だけを切り取って提供してくれるのだ。これが不味いはずがない。しかし折角の「切り売り」パフォーマンスである授業も、目の前の客である学生が寝てしまっているのは全くの無意味だ。従ってちよつとした工夫がここで必要になる。また、教育の場合は知識を「売る」だけで終わりでない。学生がその知識をしっかりと消化することが重要なのであり、必要に応じて消化不良を起こさないような工夫も必要なのだろう。今話題のアクティブ・ラーニングを取り入れた授業などは、本来こうした工夫の一つに過ぎない。アクティブ・ラーニングの議論のひとり歩きは、何のためにそれを行うかを忘れ、手段が目的化してしまうことが少なくない。それによって売るべきものが何なのか、今一度立ち止まって確認すべきであろう。

姉妹大学との親善音楽会と学生交流会をもち

国際交流委員 教授 楊 尚眞



去る、2月2日、本学と姉妹大学であるソウル神学大学の親善演奏会が本学礼拝堂にて開かれた。神学大学教会音楽科教授3人が聖歌や西歐歌曲、韓国、日本民謡など20曲を披露し、学生や市民らが多様な楽曲と美しい声楽に魅了された。ソウル神学大学と

【症状を中心とした関連付け】「明確になった不足知識」、「不安と混乱の受け止め」、「状況に応じた柔軟な対応」、「話しやすい雰囲気」、「整理されたわかりやすい記録」、「適切な判断と援助」という7つの学びがあったことがわかりました。とりわけ、多く学ばれていたのは、「症状を中心とした関連付け」でした。これは、子どもや家族が訴えてくる一つ一つの症状が意味するものや、それらの関連性について学ぶことができたものと考えられます。小児の発熱は、一般に小児外来で多い主訴の一つですが、川崎病や感染症、腫瘍性疾患、発熱に伴う発疹など多種多様な病態・疾患が含まれます。同時に下痢や嘔吐があると、感染性胃腸炎の可能性

もあり、アセスメントを間違えると、突然の急変に対応が遅れてしまうので、複数の症状との関連性を考えていく必要がでてきます。小児がどの程度の苦しさを、どの位急いだほうがよいのかを判断することは、小児外来での看護師の大きな役割です。目の前で今起きている症状から、判断される援助や対応についての学びは、学生が予診の中で小児や家族が話す症状を総合的に判断して、援助につなげていくことができたという教育的な示唆を得られたと考えることができたのではないかと考えます。今後は本研究を足掛かりとして、小児の症状に関するアセスメント力の強化を図っていきたいと思っています。

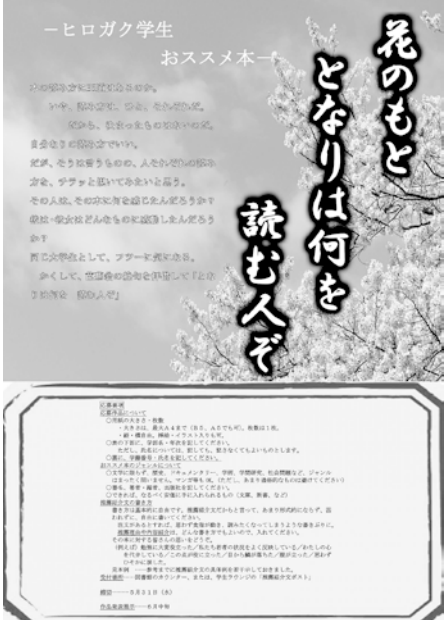
「私のオススメ本」募集
図書館では昨年12月より「私のオススメ本」と題し、図書推薦文の募集を始めました。近年、スマホやタブレットの普及により若者の活字離れが進み、本を読まない大学生が増えていると言われています。ある調査によると1日の読書時間が0分と答えた大学生

生は約4割にも上ります。果たして本学の学生はどうなのでしょう。弘前学院大学にはさまざまな読書経験を持つ学生が多いはずで、そもそも学びにとって、知の積み重ねに伴う読書は不可欠の必須栄養源です。そこで図書館では、皆さんに個々の読書経験を披露して頂き、経験と知識を共有できる企画を始めました。A4以下の用紙にあなたがオススメする本の簡単な内容紹介、推薦理由を記入して下さい。イラストや写真を貼っても構いません。推薦文を読んだ人が思わず本を読みたくなってしまような内容の推薦文をお願いします。詳細についてはポスターをご覧ください。図書館職員までお問い合わせ下さい。

人が本学を訪問し、笹森建英客員教授による特別講義「青森県文化」を受けたが、特にキリスト教文化の中で、弘前出身の教会指導者である本多庸一と本多から多大なるキリスト教の影響を受けたホーリネス教会の中田重治について語られたが、ホーリネス教会の歴史を辿ると、韓国のホーリネス教会形成には中田重治による

影響がその基となっていることを知るようになり、感嘆した。講義の後、学生ラウンジにおいて、本学の学生6人と教員3人で交流会をもった。交流会は、昼食を交えながら、両国の文化や両大学の生活などを話題にお互いに楽しく語り合った。韓国語の勉強をしている本学学生たちも参加し、韓国語でお互いに話すことに驚いた。今回の本学の訪問は、日本文化

研修旅行の一環であり、一昨年に続いて二回目の訪問である。二泊三日の弘前訪問であったが、日本文化を学ぶことができる神社仏閣、教会、結婚式場、観光館、葬儀場、火葬場、スーパーマーケットなどを訪問し、古代と現代文化に触れることによって、今まで知ることができなかった日本文化についてのより深く深い知識を得ることができた。



「私のオススメ本」募集
図書館では昨年12月より「私のオススメ本」と題し、図書推薦文の募集を始めました。近年、スマホやタブレットの普及により若者の活字離れが進み、本を読まない大学生が増えていると言われています。ある調査によると1日の読書時間が0分と答えた大学生

弘前学院校友会より 母校援助金寄贈される
去る、2月27日(月)に、弘前学院校友会中田悦子会長より2016年度の母校援助金30万円が寄贈されました。この援助金は毎年寄贈され、今年、学校の公用車購入の資金として使用されました。高校訪問や実習先訪問のために活用されます。校友会の皆様方の熱い援助に心から感謝申し上げます。



地域スポーツ団体の スポンサーとは？

文学部 日本語・日本文学科2年 工藤 早紀

私たち「ヒロガクIEO」は、「教養演習K」を受講した文学部の2〜4年生により組織された学生団体である。弘前市における地域活動・まちづくりについて、実践を通して理解し、自らも地域の担い手としての力量を身につけようと、「ひろさきスポンサーシップリサーチプロジェクト」を行った。これは、

本学で初めて弘前市学生地域活動支援補助を受けることができた。プロジェクトを実施するにあたり、私たちは弘前市を拠点に活動するサッカーチーム「ブランデュー弘前FC」を支えるスポンサー企業に着目し、どのようなスポンサー活動をしているかなどを調査した。

まず、6月上旬にブランデュー弘前FCの運営母体である「弘前Jスポーツプロジェクト」黒部能史理事長による講演を受け、サッカーチーム運営でのスポンサー企業の重要性を学んだ。そしてプロジェクトの第1段階として、7月上旬にブラ



ンデュー弘前FCのホームページ上で、サポーターへの対面式アンケート調査を行った。これにより、サポーター側からのスポンサー企業に対する意識や認知度を知ることができた。7月中旬にはブランデュー弘前FCのスポンサーを行って

社会福祉士・精神保健福祉士養成 校成績優秀者表彰される

この度、二〇一六(平成二十八)年度の成績優秀者が決まり、三月十八日に表彰状の授与が卒業式後に行われた。

この賞は、社会福祉士・精神保健福祉士養成校の養成課程修了者で学業成績・人物ともに優秀である学生に対し贈られるものです。日本社会福祉士養成校協会成績優秀表彰者は、対馬かおりさん、日本精神保健福祉士養成校協会成績優秀表彰者、中村寿子さんです。



文学部・社会福祉学部 合同学内就職セミナー報告

平成二十八年度文学部・社会福祉学部合同学内就職セミナーを三月四日(土)本学体育館において実施した。

日本経済団体連合会が学時日程への配慮から就職選考開始時期を繰り上げたため、三月の実施は今回で二回目である。今回も、福祉関係については採用時期が遅いため一般企業のみの実施となった。

参加した企業は四十事業所、オプザーバー一事業所、就職支援業者一社で、学生は二・三年生合わせて一〇六名であった。

セミナーの運営法式は企業側の説明を三十分刻みの計五回とし、その都度学生を入れ替える方式とした。これは学生が一社

期を繰り上げたため、三月の実施は今回で二回目である。今回も、福祉関係については採用時期が遅いため一般企業のみの実施となった。

そして調査結果を踏まえ、「より有効なスポンサー活動を行うためのアイデア」を考案した。まず、企業からはスポーツ団体と自社製品などをコラボしたり、チームカラーやロゴを活用することにより、企業活動を通じてチームを周知・応援することができるとはないか。一方のスポンサー団体からは、試合会場にスポンサー企業のブースを設けたり、選手個人の写真や情報を提供し商品パッケージや販売促進に活用してもらうことにより、企業のスポンサーとしてのメリットを伸ばせるのではないかと考えた。

福祉教育カリキュラムづくりに 参加して

社会福祉学部 社会福祉学科3年 三上友莉香



昨年6月からあおもりインクルージョンネットワークとの協働で、高校生を対象とした福祉教育カリキュラムづくりを行ってきた。私がこの活動に参加した理由は、活動の目新しさや現場で働く福祉従事者と関わりながらカリキュラムを作っていくことで福祉の魅力を私たち学生

も再発見することができると考えたからである。また、高校生に福祉の価値や魅力を伝えることで、彼らにとっても福祉が将来の選択肢の一つになるのではないかと考えていた。

活動の過程では、まず事前学習を行い、意見交換をしながら話し合いを進めた。今回私たちが作ったカリキュラムは「これっていいこと?悪いこと?」「ドラえもんが最後に残した道具」の二つである。私たちはこのカリキュラムを通して視点の

でも多くの企業の説明を受けられるように配慮したものである。セミナーは各ブース共学生が企



業の説明を熱心に聞き、質問して企業が求める人材や仕事内容など聞いていた。三年生は今後本格的に始まる就職活動のステップとして、二年生は次年度から始まる就職活動への備えとして熱心に聞いていた。今回のセミナーをきっかけとして、学生が企業に積極的にチャレンジして、自分の希望する就職先を決定することを期待する。(就職課)

転換を体験することで、多角的な視点を養うことを目的としていた。多様な意見に触れる体験を通して、多様な価値を認めるという考え方は福祉の価値の中でも重要であると同時に、人と関わる上で必要となる姿勢ではないかと考え、カリキュラムの中に組み込んだ。そして、実際に五所川原第一高校、五所川原農業高校で実施した。どちらの高校でも高校生がテーマに対し真剣に向き合い、活発に話し合う姿が印象に残った。また、異なる意見に耳を傾ける中で、その違いを楽しんでくれたことに最もやりがいを感じた。今回のシンポジウムでは、カ

リキュラムづくりの実践報告を含め、課外活動のやりがいと課題、そしてこれからの展望について他大学の学生と意見交換した。その中では、地域との交流を活発にしていること、学生が協働して取り組むことの必要性を再確認した。



地域の中で働く福祉従事者の熱意を感じる機会が今まで少なかった分、今回の活動を通して触れることができたのは今後の課外活動への意欲に繋がった。同時に、残りの大学生活ではさらに輪を広げて多くの人におもしろいと感じてもらえ

-2017-

看護学部

学内就職セミナー

2017年 5月20日(土)

午後1時~4時まで

場所 弘前学院大学 体育館

-2017-

社会福祉学部

学内就職セミナー

2017年 5月13日(土)

午後1時~4時まで

場所 弘前学院大学 体育館

いながらにして
病院・施設を知るチャンス!!

二〇一六年度 理事長賞授与者

- 文学部 英 語 英米文学科 佐藤菜衣(弘前中央高校卒)
- 日本語・日本文学科 蜂谷菜摘(青森東高校卒)
- 社会福祉学部 社会福祉学科 丹藤雅代(弘前中央高校卒)
- 看護学部 看護学科 池内茉季(札幌日本大学高校卒)

四年間をふり返って

文学部 英語・英米文学科卒 佐藤 菜衣



弘前学院大学での四年間を振り返ると、私は多くの人たちと出会い、とても充実した日々を送ることができたと実感しています。入学当初は、新たな環境への不安や緊張を抱いていましたが、心優しい先生方や友人たちのおかげですぐに慣れることができました。

私は、大学生活では何事にも積極的に挑戦するという目標を持っていました。吹奏楽サークルでの活動、英会話を活用しての交流ボランティア、大学のオープンキャンパススタッフや聖愛中学校でのスクールサポーターなど、少しでも興味を持ったものには参加してみました。初めて経験す

るものばかりで不安になることもありました。そこで出会った人たちと接することで多くを学び自身の視野が広がっていくのを感じました。自分にはない考え方やアイデアに出会い、それらを実践することによって、物事を多角的に捉え試行錯誤することの大切さを知りました。

数ある挑戦の中で私にとっても印象的なものは、アメリカでの海外研修です。自身の英語力を磨きたい、異文化に触れ新たな世界を見てみたい。そういった思いを持っていながらも、一歩踏み出すことをずっと恐れていました。しかし、先生や一緒に参加する友人たちの励ましにより、挑戦する決心がつき研修に臨むことができました。アメリカでは、ホストファミリーやシエンンドア

資料を魅せる工夫にも目を向けられるようになりました。私の大学生活は、本当に充実した時間を過ごせました。入学当初の自分よりも、どれだけ成長できたかは分かりません。しかし、この四年間が私にとって、なくてはならない大切な時間であったことは断言できます。これからは、自分も社会を支える一員であること

を自覚し、少しでも誰かの役に立てる人になりたいと思います。最後に、今まで様々な学びを与えて下さった先生方、共に楽しい時間を過ごした友人たち、そして、一番近くで自分の努力を見守ってくれた家族には本当に感謝しています。常にたくさん支えがあったからこそ、無事に卒業の日を迎えられました。この感謝の思いを忘れずに、新たな道を歩んで

大学生活を振り返って

文学部 日本語・日本文学科卒 蜂谷 菜摘



新しい生活に期待と不安を抱えていた四年前の春、早朝の電車通学になかなか慣れず、毎日緊張しながら学校の門をくぐっていた自分の姿が思い出されます。そんな緊張や不安もいつの間にか消え去り、無事に卒業の日を迎えました。

弘前学院大学での四年間は、長いようであつという間に過ぎていきました。入学当初は、科目の多さに圧倒され知らないことばかりに戸惑いながら臨んでいた講義。それも学年が上がるにつれて

も、積極的に挑戦するという目標を持っていました。吹奏楽サークルでの活動、英会話を活用しての交流ボランティア、大学のオープンキャンパススタッフや聖愛中学校でのスクールサポーターなど、少しでも興味を持ったものには参加してみました。初めて経験す

るものばかりで不安になることもありました。そこで出会った人たちと接することで多くを学び自身の視野が広がっていくのを感じました。自分にはない考え方やアイデアに出会い、それらを実践することによって、物事を多角的に捉え試行錯誤することの大切さを知りました。

数ある挑戦の中で私にとっても印象的なものは、アメリカでの海外研修です。自身の英語力を磨きたい、異文化に触れ新たな世界を見てみたい。そういった思いを持っていながらも、一歩踏み出すことをずっと恐れていました。しかし、先生や一緒に参加する友人たちの励ましにより、挑戦する決心がつき研修に臨むことができました。アメリカでは、ホストファミリーやシエンンドア

資料を魅せる工夫にも目を向けられるようになりました。私の大学生活は、本当に充実した時間を過ごせました。入学当初の自分よりも、どれだけ成長できたかは分かりません。しかし、この四年間が私にとって、なくてはならない大切な時間であったことは断言できます。これからは、自分も社会を支える一員であること

を自覚し、少しでも誰かの役に立てる人になりたいと思います。最後に、今まで様々な学びを与えて下さった先生方、共に楽しい時間を過ごした友人たち、そして、一番近くで自分の努力を見守ってくれた家族には本当に感謝しています。常にたくさん支えがあったからこそ、無事に卒業の日を迎えられました。この感謝の思いを忘れずに、新たな道を歩んで

祝卒業

看護学部での学び

看護学部 看護学科卒 池内 茉季



四年間の大学生活はあつという間でした。入学当初は、看護師になりたいという目標はありましたが、まだ看護師という職業をよく知りませんでした。私は病院にかかるといえばほとんどが外来で、そのこともあってか、看護師という職業に対して、注射をしたり、検査や医師の補助などをす

卒業のときを迎えて、弘前学院大学で過ごした日々は、充実した四年間であったように感じています。

入学当初、大学生活に対する大きな期待で胸を膨らませた一方、同じくらい大きな不安を抱いていたことを思い出します。そんな不安を吹き飛ばすかのような楽しい時間を与えてくれたのが、入学式直後に行われた一年生のリトリートでした。新しい仲間との出会いにより、学生生活への確かな希望と期待を感じることができ、幸先の良い大学生活の幕開けとなったことを思い出します。

学生生活においては、毎週行われるというイメージがありました。しかし、講義をうけ、看護の歴史や行為の意味などを学んでいくうちに、そのイメージは変わっていききました。看護師の業務には、注射や与薬などの医療行為の他にも、入浴や食事の介助、療養環境の整備などがあり、患者の療養生活の様々な場面に関わります。これらはすべて、患者が自身の力で回復することができるようになることを支える行為であったということを知りました。

三年次の後期からは実習が本格化しました。講義、学内演習や病院実習での実践、実習の振り返りと繰り返していく中で、自分の

卒業のときを迎えて

社会福祉学部 社会福祉学科卒 丹藤 雅代



卒業のときを迎えて、弘前学院大学で過ごした日々は、充実した四年間であったように感じています。

入学当初、大学生活に対する大きな期待で胸を膨らませた一方、同じくらい大きな不安を抱いていたことを思い出します。そんな不安を吹き飛ばすかのような楽しい時間を与えてくれたのが、入学式直後に行われた一年生のリトリートでした。新しい仲間との出会いにより、学生生活への確かな希望と期待を感じることができ、幸先の良い大学生活の幕開けとなったことを思い出します。

学生生活においては、毎週行われるというイメージがありました。しかし、講義をうけ、看護の歴史や行為の意味などを学んでいくうちに、そのイメージは変わっていききました。看護師の業務には、注射や与薬などの医療行為の他にも、入浴や食事の介助、療養環境の整備などがあり、患者の療養生活の様々な場面に関わります。これらはすべて、患者が自身の力で回復することができるようになることを支える行為であったということを知りました。

三年次の後期からは実習が本格化しました。講義、学内演習や病院実習での実践、実習の振り返りと繰り返していく中で、自分の

感謝と謝罪を

大学院文学研究科修了 神 奈津美



大学生活において、何か得るものがあつたか、と問われると、一つだけはっきり答えられることがある。学部四年の間に、気の置けない友人たちがあつた、ということだ。

元来、私は勉強も嫌いであつたし、小中高と通して「学校が好きだ」と思えたことは一度たりもない。ところが、大学ではサークル活動を通して、毎日のようにどうでもいい話をし続けられる友人を得ることができた。

進学と就職と現状こそ大きく異なつてしまつたものの、現在も定期的に集まつて夜通し遊び歩けるような友人がどれほど得難いものか、元々非常に狭い交友関係でいることができたからくりと考えることができたからです。今までたくさんの人と出会いお世話になつたように、きつとこれからはたくさんの人に出会うと思ひます。

弘学での学びを基礎にさらなるステップアップを目指し、少しでも恩返しができるように看護師としてこれからも精進していきたいです。

四月からは、弘前の地を離れ医療福祉分野の最前線である大都市で専門職としての仕事が始まります。決して平坦な道ではないと思いますが、弘前学院大学での学びを糧にして、社会人としての自覚と責任を持ち、歩んでいこうと思ひます。

この先、そんな風に何の役にも立たないような過去の思い出話で笑い転げ、時にはお互いの間違いを指摘し合えるような出会いがどれほどあるだろうか。きつとないのだからと思う。

また、いつも熱心に指導してくださり、またいつでも私の味方でいて下さつた先生方には生涯頭が上がらない。

院生としての生活は、友人と過ごした学部生の時とは打つて変わつて静かなものだった。一年目の前期には既に強くそう感じていた。上手いこと論文が進まずに気分的に沈み込むことも多々あつた。

それでも、指導担当の教授にほぼつぼつと心情を話している内に「ああ、このままでは本当にいけない」と改めて思ひ知らされた。我ながら、褒められるような学生ではなかつた自覚は大いにある。それでも見捨てず、最後まで指導に当たつて下さつた先生には感謝の気持ちと謝罪の言葉しかありません。

この場を借りて、出来ない学生を最後まで見捨てずにいて下さつた方々に、改めて感謝と御礼を申し上げます。